

blood news

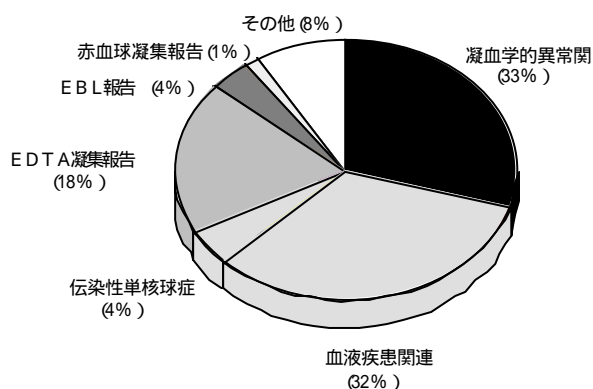
今月のテーマ

血液検査室からのコメント報告書の効果”

血液検査室では血液塗抹標本や血液データに異常が見られた時、それらの所見をコメント報告書に記載し、病棟または外来に報告しています。また鑑別診断や病態を把握するうえで必要な特殊検査や追加検査などを臨床側に依頼することもあります。

1998年4月から2000年9月までの期間内に血液検査室で記載したコメント報告書（総数243件）の内訳とその比率を図1に示します。主に凝血学的な異常に対するコメントと血液疾患に対するコメントが2/3を占めています。血液疾患に関連するコメントは次回の blood news にてお知らせしますが、凝血学的異常についての具体例を以下に示します。塗抹標本上で観察したSIRSに関連する好中球の様々な異常（空胞変性、左方移動、退行性変化、中毒性顆粒の出現）や赤血球の破碎像、また時系列データを検索中に見いだした血小板数の著明な減少やMOFを疑わせる種々の所見、さらにLDH/PLT比の異常高値などが認められる時に、血液検査室ではこれらの所見を積極的に記載し報告しています。

図1 コメント報告書内訳



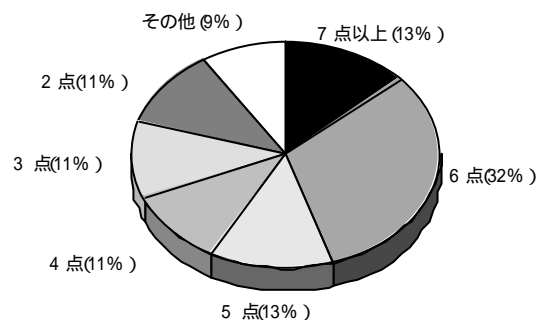
blood news

今回は凝血学的異常に関して追加検査や特殊検査の依頼をお願いした症例について、特にその内容の適切性と効果を検証する目的で以下の検討を行いました。

コメント報告書提出後の追加検査依頼状況とDICスコアについて

凝血学的検索がさらに必要と思われる場合、追加検査としてFDP, AT-III, 凝血学的分子マーカー、血液培養等の依頼をお願いすることがあります。血液検査室にてコメント報告書を提出した46/72件(64%)に追加依頼が得られました。その内、凝固検査, FDPの依頼のあったものを厚生省のDIC診断基準に従いDICスコアとの関連を検討してみました。7点以上の症例が13%、6点(pre DIC)が32%と、約半数例に凝血学的異常が見られました(図2)。

図2 凝固検査、FDPが提出された当日のDICスコア



凝血学的分子マーカーとDICスコアの比較

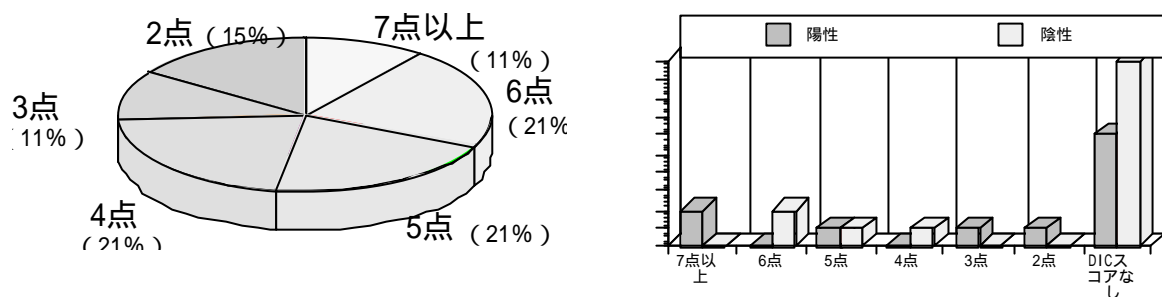
凝固検査、FDPの依頼があった患者で凝血学的分子マーカーの依頼があった患者は41%(19件)ありました。その内、凝固線溶マーカー項目で異常値がみられた患者は95%(18件)ありました。

blood news

DIC スコア別に見てみると、スコアが 2 点から 7 点以上の患者にわたり異常値を呈していました（図 3）。

血液培養の依頼状況と DIC スコア（図）

検査依頼は 25 件あり、その内 46%で陽性所見が得られました。これらと DIC スコアとの関連について検討してみました。



（まとめ）

今回は血液検査室からの凝血学的関連のコメント報告の効果をみてみました。コメント報告後に検査の依頼のあったものに関してコメント内容の検査項目においていずれかが異常値を呈しており、臨床的にも有用なデータが得られたと思われます。またこれはコメント報告内容が適切であったと考えられます。臨床側からの検査依頼に関しては、患者の状態、状況を合わせた上で行われると思いますが、今後も血液検査室からのコメント報告に注目して頂きコメント内容も考慮した上で検査依頼していただける様お願いいたします。